

第1分科会 国語教育（文学教育）

目的をもって読み、思いや考えを表現しようとする児童の育成

1. 設定理由

児童が目的意識をもって読む活動にとりくむと、意欲的に読み、文章を繰り返し読むことを通して自分の思いや考えをもつことができ、それらを表現しようとすることができる考えた。「伝えたい」という主体的な思いをもつことができれば、相手に応じた言葉を選び、正しくわかりやすく伝えようとするすることができるのではないか。

本校の児童は文章を読み取ることや読み取ったことから生まれた思いや考えを表現することに課題が見られる。

以上から、児童が繰り返し進んで読むことができるような活動を工夫することで、読みを深めたり、思いや考えを相手に伝えようとしたりする児童を育成したいと考え、本単元を設定した。

2. 研究仮説

研究仮説1

児童が目的意識を持続できるような単元を計画し、単元のねらいに沿った言語活動を設定すれば、主体的に表現する力を高めることができるだろう。

研究仮説2

言語を増やしたり獲得したりするための活動を工夫していけば、より適切な言葉や方法を用いて表現しようとすることができるだろう。

3. 研究内容

○児童が主体的に読むことのできる指導計画、言語活動の設定

○言語を増やしたり獲得したりするための活動の設定と継続

4. 結論

○児童の実態と単元のねらいを考慮して単元のゴールを設定したところ、児童が意欲をもちながら学習することができた。

○思考ツールを用いたワークシートの活用など、指導計画に即した言語活動を設定すると、読んだことや思いや考えが視覚化され、焦点化されるため文章の要点がとらえやすくなった。

○音読や、語句について理解する活動を設定し、継続してとりくむことで、言葉について理解する機会が増え、言語の獲得につながった。

印旛支部

四街道市立和良比小学校

藍 素子

高萩 明美

1 研究主題

目的をもって読み、思いや考えを表現しようとする児童の育成

<読む姿>

読み取る・解釈するだけでなく、読むことを通して自分の思いや考えをもち、それらを言葉や文字に表そうとする。

<表現しようとする姿>

「伝えたい」という主体的な思いや考えをもちながら、正しく、相手に分かりやすく伝えようとする。

○「正しく」…叙述を基にして読む

自分なりの考えや思いを児童がもつには、文章を叙述に沿って読み、内容を正しくとらえていることが前提となる。読み取ったことをもとにして想像力を働かせ、自分の思いや考えを児童が意識すること、それを伝えるためにどんな言葉を使えばよいか、適切な言葉を選ぶことも大切である。叙述に沿って読み取り、自分の思いや考えを適切な言葉を選んで表せるようにしていきたい。

○「相手に分かりやすく」…相手意識を持つ

相手意識を持つことによって、児童の伝え方や言葉に対する関心を高めることができる。相手に分かってもらうにはどのような方法で、どのような言葉を用いて伝えればよいかと考えることによって、より多くの表現方法や言葉を知るよさが分かるであろう。相手によく分かってもらうためにそれらを用いて伝える経験を重ねられるようにしていきたい。

2 主題設定の理由

(1) 社会の動向と学習指導要領から

2015年に実施された OECD の調査結果が2016年12月に示された。日本は「読解力」が低下した。活字離れでまとまった文章を読む機会の減少や語彙量の不足を原因とする指摘がある。また、探究型授業について課題があるとの指摘もある。

現行の学習指導要領ではこれまでの理念を継承し、「生きる力」の育成を目指してきた。次期学習指導要領についての審議のまとめを見ると、授業改善の視点として、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図ることが記されている。国語科においても、これらの視点をもって授業改善を図り、どのように学ぶのか、学び方を児童が知ることができる授業をめざす必要がある。

(2) 学校教育目標から

本校の学校教育目標は「明日を切り拓き、心豊かでたくましく生きる子どもの育成—知と心と体のバランスのとれた子どもを目指して—」である。めざす児童像を「やさしく（豊かな心）かしこく（学ぶ喜び）たくましく（健康と体力）」とし、主体的にとりくみ、学ぶ喜びを味わうことができる子どもを育成しようとしている。主体性をもつためには、児童が自分自身で考えることができなければならない。それには、考えるもとになる知識等が必要で、それらは読んだり聞いたり体験したりする活動を通して理解することで得られる。言語学習を中心とする国語科においては、読む力を高めることは、他の教科や領域の学習の理解を確かなものにするためにも重要になってくる。国語科で読む力を高め、読むことを通して思いや考えを表現できることを目標とすることは、本校のめざす児童像を具体化するためにも重

要になると考える。

(3) 児童の実態から

本校は、1991年に創立し、四街道駅から徒歩圏内の30年弱を経過した新興住宅地に位置する。県標準学力検査の国語科を見ると、2015年度は2学年以外は「話すこと・聞くこと」や「書くこと」に比べて「読むこと」の領域の正答率が低く、どの学年も7割弱から7割前半にとどまっていた。2016年度は、1学年と4学年、6学年で正答率が7割後半となり、6学年は他の領域よりも正答率が高くなり、改善が見られた。しかし、全体的には、他の領域と比べて正答率が低い学年が多いのは変わっていない。初めて読む長文の内容や問題が質問している内容、選択肢に書かれている文章の内容を限られた時間で正しく読めていないという実態は改善されたとは言い難い。また、記述式の問題は特に個人差が大きい。2016年度の全国学力・学習状況調査の国語科では、A問題B問題とも、「読むこと」については全国・県平均を上回っていたが、読み取って記述する複合的な問題については全国平均を下回った。一度で文章を正しく読むこと、読み取ったことをもとに考え、それを表現できるようにするのは引き続いての課題であると考ええる。

以上のことから、本校では国語科の読むことに重点をおいて研究を進めていくこととした。

3 研究の目標

○読むことの授業づくりの工夫を通して、目的をもって読むことや思いや考えを表現しようとしていくことができる児童の育成をめざす。

4 研究の仮説

仮説1

児童が目的意識を持続できるような単元を計画し、単元のねらいに沿った言語活動を設定すれば、主体的に表現する力を高めることができるだろう。

(手だて)

①単元を通して目的をもって主体的に読もうとすることのできる指導計画を立てる。

- ・単元のめあてに合った学習のゴールを設定する。
- ・学習計画表を掲示し、目的に向かってどのように学習するのか明示する。
- ・ゴールのモデルを作成して示す。

②単元のねらいに沿った言語活動を設定する。

- ・読み取ったことや、思いや考えが表現できるような学習活動を工夫する。
- ・効果的な交流活動を検討する。
- ・読むことや、読むことを通して思いや考えを表現することを積み重ねていくことができるワークシートやノートづくりをする。

仮説2

言語を増やしたり獲得したりするための活動を工夫していけば、より適切な言葉や方法を用いて表現しようとしていくことができるだろう。

(手だて)

①読み方、表現方法について習得したり語彙を増やしたりする活動やその設け方を検討し、計画的、継続的に行う。(授業時間内に行うもの、日常活動として行うもの)

例 語彙集め(「言葉のノート」)、ショートスピーチ、日記、ことわざ調べ、短作文

②用語(「学ぶ言葉」)や難語句について理解する機会を設ける。

5 研究の実際

授業実践

第6学年 感想を伝え合おう『川とノリオ』

単元構成（10時間扱い）

学習過程	時配	学習内容と学習活動	評価規準（観点）【方法】〈仮説〉
見出す	2	○教材文を読み、初発の感想を書く。 ・時・場・人物に着目 ○モデル文を読み、単元の見通しをもつ。 ブックレビューを書いて、物語の紹介をしよ	・教材文に興味を持ち、初発の感想を書こうとしている。（関心・意欲・態度）【ノート・発言】 ・モデル文を読み、学習の見通しを持とうとしている。（関心・意欲・態度）【行動観察】〈仮説1〉 ・並行読書と短文作りを通して、読書への興味を広げたり、表現の効果を習得したりしている。（言語）【行動観察・ノート】〈仮説2〉
考え深める	1	○「ブックレビュー」を書くことを見通し、登場人物の行動について考え、『川とノリオ』のあらすじを捉える。	・登場人物の行動から、あらすじをとらえている。（読むこと）【発言・ノート】
	3	○「ブックレビュー」を書くことを見通し、優れた叙述をもとに、登場人物のおかれた状況と心情の変化について考える。	・優れた叙述の効果から、登場人物の心情の変化をとらえている。（読むこと）【発言・ノート・教科書へのサイドライン】〈仮説1〉
	1	○「ブックレビュー」を書くことを見通し、「あらすじ」「優れた叙述」「登場人物の心情の変化」を関連付けて考える。	・「ブックレビュー」を書くために、これまでに学習したことから材料を探している。（読むこと）【発言・ノート】
	2	○『川とノリオ』の「ブックレビュー」を書き、友だち同士で交流し、相互評価をする。	・「あらすじ」「優れた叙述」「登場人物の心情の変化」をもとに、『川とノリオ』のブックレビューを書いている。（読むこと）【ブックレビュー】〈仮説1〉〈仮説2〉 ・友だちと「ブックレビュー」を読み合い、良いところを認め合い、意見交流をしている。（読むこと）【交流カード・発言】〈仮説1〉

まとめあげる	1	○自分で選んだ物語の「ブックレビュー」を書き、本とともに図書室に置く。	・選んだ物語を読み、「あらすじ」「優れた叙述」「登場人物の心情の変化」などをもとに「ブックレビュー」を書いている。(読むこと)【ブックレビュー】<仮説1>
--------	---	-------------------------------------	---

仮説に対する手だてと実践

仮説1

児童が目的意識を持続できるような単元を計画し、単元のねらいに沿った言語活動を設定すれば、主体的に表現する力を高めることができるだろう。

手だて①

単元を通して目的をもって主体的に読もうとすることのできる指導計画を立てる。

○物語のあらすじをとらえ、優れた叙述から登場人物の心情の変化を読み、さらに、読書活動を充実させるための単元構成

『川とノリオ』は、優れた叙述がたくさんあり、その効果を考えることで、登場人物の心情の変化を深く読むことにつながると考える。そこで、第一次、第二次、第三次で構成した。

第一次では、ブックレビューのモデル文を提示し、紹介文を書いて図書室に置くという具体的な見通しを持たせることで、関心・意欲を高める。また、紹介文のモデルを提示することは、感想を伝え合うことに苦手意識をもっている児童が、どのような活動なのかをイメージしやすくなると考えた。

第二次では、ブックレビューを書くことを確認しながら、登場人物の行動や優れた叙述をもとに、あらすじや登場人物の心情の変化を捉えることができるようにした。

第三次では、物語を読み、紹介文を書いた経験を生かして、『川とノリオ』以外の物語の紹介文を書き、読書活動が広がるようにする。

モデル文『《ネコのひろば》《イヌのひろば》』（いぬいとみこ作）

ブックレビュー

《ネコのひろば》《イヌのひろば》
作者（いぬいとみこ）

戦争があったころ、牧並区には《ネコのひろば》《イヌのひろば》とよばれている庭があった。その庭の奥のすみに、一人ですむおばあさんがいた。

「なぜ、おばあさんは、子どもやまごがいないのか」「なぜ《せいパン》とあては違っているのか？」イヌのジャックは不思議に思っていた。

ある日、手紙を読んだおばあさんは、へたへたと泣きこみだした。

「息さんが戦死……」ジャックは遠くを走る。「《せいパン》のやつがおばあさんを苦しめた……」

おばあさんへの気持が、少しずつ近づいていくジャック。

ジャックとおばあさんの関係が変わり、ていねいなのがこの物語の魅力。

○読むことを必要と感じさせる単元のゴールの設定。

この単元では、「ブックレビュー」を書くことをゴールとして設定した。ブックレビューを書くことをめあてにすることで、物語を読み、あらすじをおさえ、登場人物の心情の変化について考えながら読み進める必要がある。また、ブックレビューを書くことを見通して読むことは、作品のよさについて考え、読み深めることができる。

○学習計画を提示し、目的に向かってどのように学習をすすめるのか明示することで学習の見通しを持たせる。

その内容が終わるごとに、☆（はなまる）をつけ、毎時間の学習内容を明確にした。

学習計画		感想を伝え合おう。	『川とノリオ』
学習の時間	学習内容		
①	○ 『川とノリオ』を読んで、感動を書こう。		
②	○ これからの学習の計画を確認しよう。		
③	○ ブックレビューについて知ろう。		
④	○ ブックレビューを書くことを見通して、『川とノリオ』のあらすじをくさえる。		
⑤	○ ブックレビューを書くことを見通して、すぐれた表現から登場人物の心の変化について考える。		
⑥	○ ブックレビューを書くことを見通して、『あらすじ』『すぐれた表現』『登場人物の心の変化』を関連づける。		
⑦	○ 『川とノリオ』のブックレビューを書き、友だち同士で読みあう。		
⑧	○ 自分で選んだ物語のブックレビューを書き、教室や図書室に置く。		

手だて②

単元のねらいに沿った言語活動を設定する。

○読み取る内容の焦点化

長い文章を読むことに抵抗をもっている児童のために、焦点化して読み進めて行くようにした。その手だてとして、初発の感想をまとめる際には「時・場・人物」をポイントとし、単元の終わりに書くブックレビューでは、「あらすじ」「具体的な良さ（優れた叙述など）」「登場人物の心情の変化」にポイントを置いて指導をした。

○思考ツールを活用し、視覚的に考えを整理する。

思考ツール「ストーリーマップ」を用いて視覚化し、あらすじや登場人物の心情の変化をとらえ、主体的に表現できるようにした。

あらすじをまとめたストーリーマップ

上段に書いた場面から、ノリオの状況について読み、下段にまとめていった。

ノリオの状況が大きく変わったところ
(時)はどこかを読み、話し合いをした。

小学二年のハリオ
母ちゃんは死んだ
じいちゃんは仕事をし
て

八月六日～おぼん
の夜
母ちゃん…いない
父ちゃん…小さな箱だった

ニオのリオ
母ちゃん…抱つれて
父ちゃん…戦毎へ

「川とノリオ・ストーリーマン」
戦争があったころ、広島

「リオは、じいさんの工場の草
りの仕事、
ノリオは、いろいろなことを知
っている。」

川と遊んでいた
流したものの火焔で、こた
母ちゃんも帰ってこない
じいちゃんの手になた

「りオは川と遊んでいる。
りオは何も知らなかった。
幸せなりオの神様。」

ストーリーマップを使いながら、あらすじをまとめた児童のノート

川とノリオのあらずじ」近く
戦争があたころ、広島に「子のノリオ」がいた。ノリオは戦争の
ことなど全く知らない。戦争のことなど何も知らないまま、ノリオは川
と遊んでいた。時が流れ、夏、B29が飛んでいる。次の日の朝、ドドと何かの
音がひびいた。そこで母さんは死んだ。

八月六日 仏壇に新たなぼんちうちんが下がっている。
ノリオはおいちゃんまじになった。父ちゃんも小さな箱で帰ってきた。
小学三年生になったノリオは、父ちゃん、母ちゃん、戦争のことまじまじとこ
ろを知っている。ただ、母ちゃんが帰ってくることを願っている。

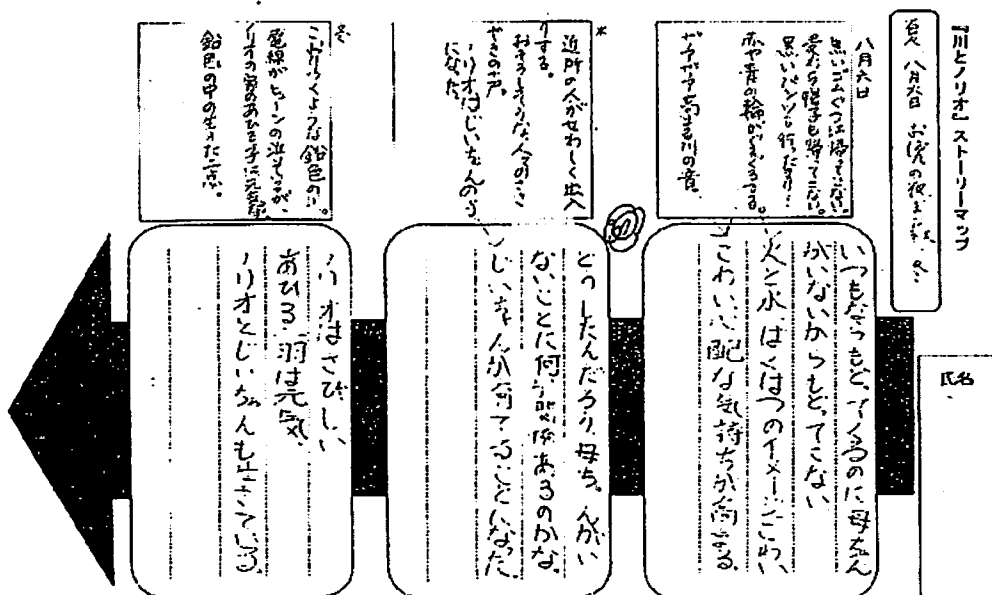
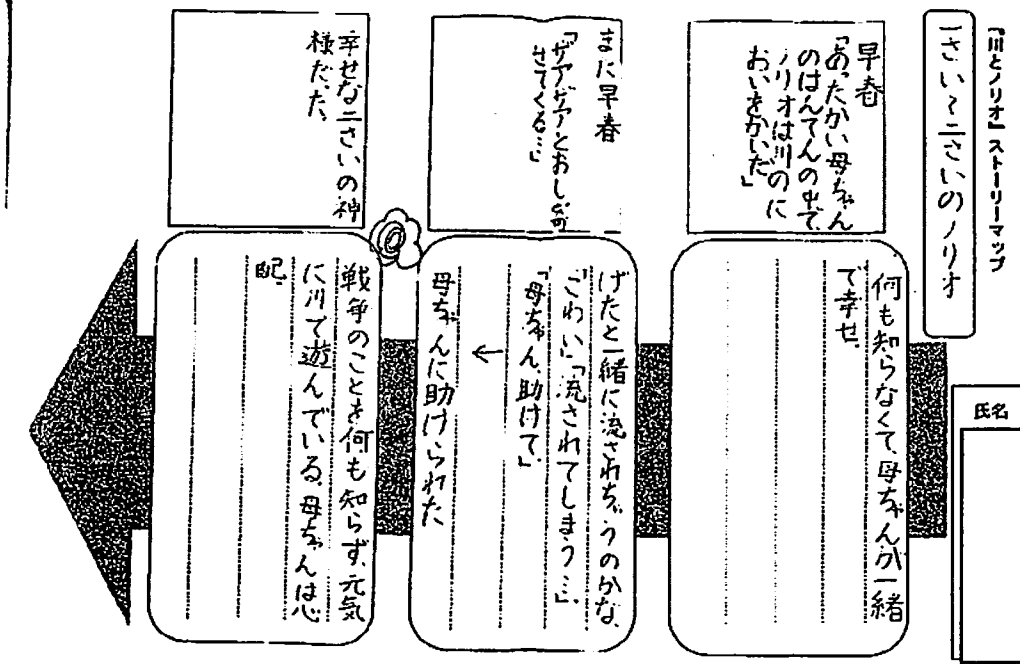
川とノリオのあつすい
戦争があらた時代。広島に近くノリオという子
の小さな祖孫がいた。このころのノリオはまだ三
ちかたをしゃべり遊んでいた。
八月六日の事件が起る。ノリオの母さんか
のた。ヒロシマへ行つた母さんかを
ノリオはじいちゃんの子になつた。
小学三年になつたノリオは母さんか死んだこと
を理解して、ただノリオは母さんの帰りをま
待ち、母さん帰れ、母さん帰れよう。

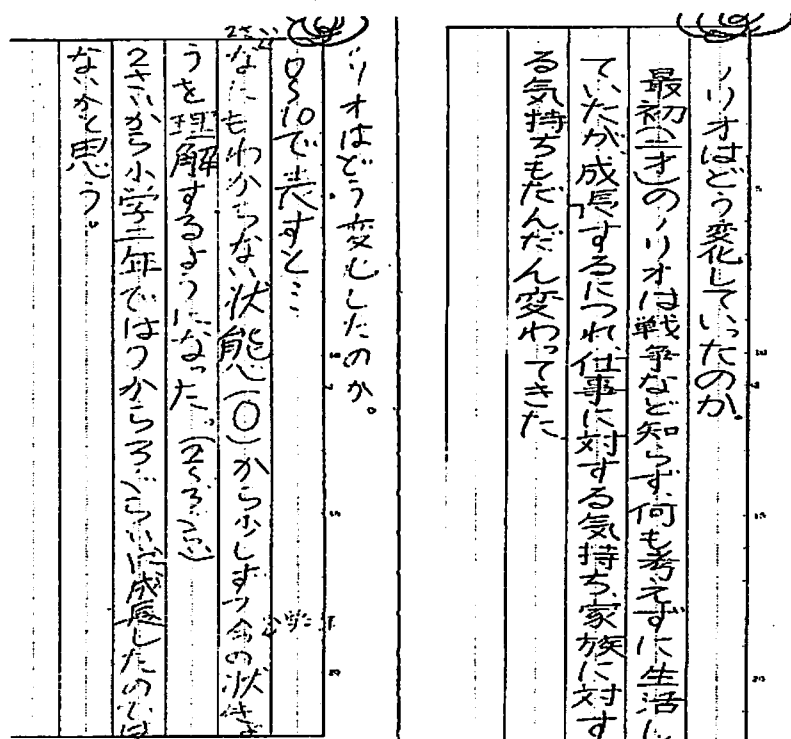
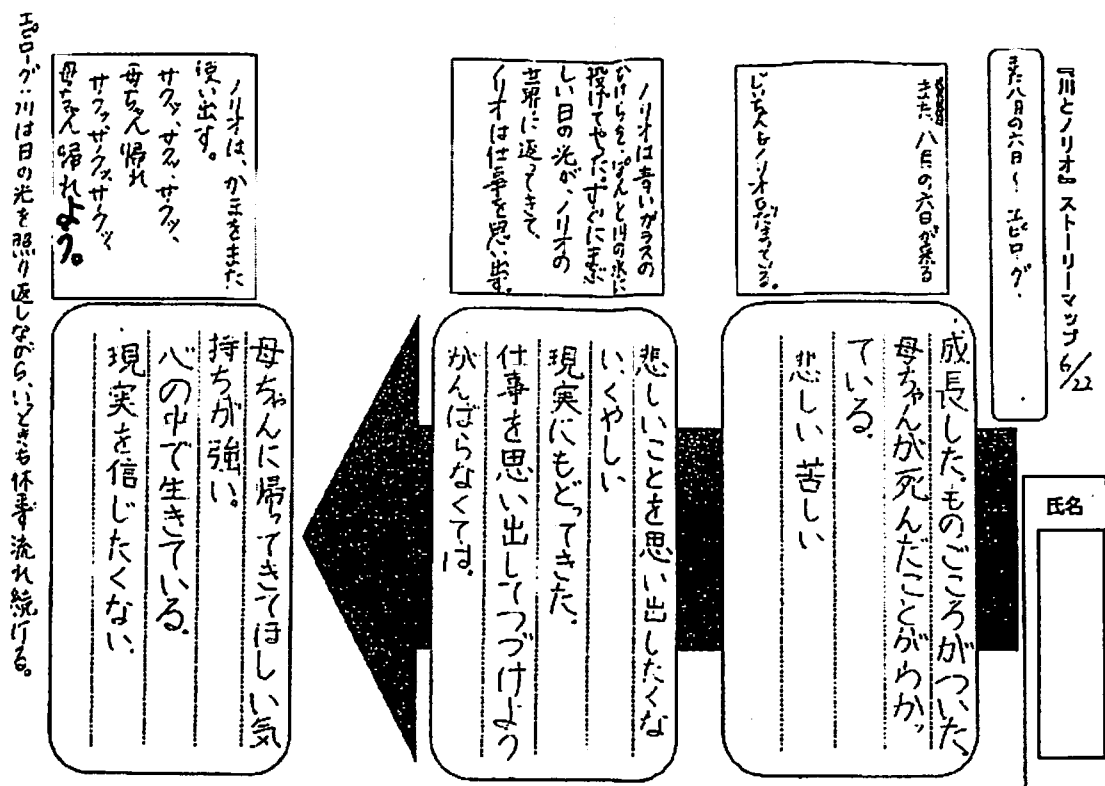
○登場人物の心情の変化を読むための手だて

登場人物の心情がわかる叙述がどの表現なのかを探ることができない児童が多くいた。そこで、登場人物の心情について考えさせたい叙述を指導者からピックアップし、児童に示すようにした。

また、表現の効果を考えさせるために、似ている表現（たとえば「八月六日」と「また、八月の六日が来る」）や、文の一部を隠す文（「サクッ、サクッ、サクッ、母ちゃん帰れ。サクッ、サクッ、サクッ、母ちゃん帰れよう。」の最後の「よう」を隠す。）などを使って、その表現の仕方の違いを比べさせることで、登場人物のおかれている状況や心情の変化を読み取らせた。

登場人物の心情について考えるために利用したストーリーマップ





○興味・関心を広げる読書活動

『川とノリオ』のブックレビューを書いたあとに、自分で選んだ物語のブックレ
ビューを書く活動を取り入れ、読書の幅を広げた。また、時間外ではあるが、戦争に関
する本を教室に置いたり、読み聞かせを実施したりし、興味・関心を高める。戦争に
関する本のみでなく、優れた表現が書かれている本も準備しておき、指導者から紹介
するようにした。

仮説 2

言語を増やしたり獲得したりするための活動の工夫をしていけば、より適切な言葉や方法を用いて表現しようとすることができるだろう。

手だて①

読み方、表現方法について習得したり語彙を増やしたりする活動やその設け方を

検討し、計画的、継続的に行う。

○「言葉のノート」の作成

国語の学習やドリルタイムに、学習用語や教材文の語句調べをし、「言葉のノート」に記録させた。(資料編参照)

手だて②

用語や難語句について理解する機会を設ける。

○優れた表現の効果の理解と活用

「比喩」「体言止め」「オノマトペ」「リフレイン」「倒置法」「対句的表現」について、知っているものが少ないという実態があった。優れた表現について知ることと、その表現を「川とノリオ」の文中から探すことからはじめていく。その表現があることでどんな効果があるか、または、その表現を使わないとどんな違いがあるかについて考えさせた。

また、この単元での学習だけでなく、日記、作文・詩などに取り入れ、実際に優れた表現を使うことで、表現の効果を確認することができるようにした。

【6 学年 感想を話し合おう『川とノリオ』の成果と課題】

〈仮説 1 について〉

①児童が目的意識を維持するための単元計画

○「ブックレビュー」を書くことをゴールとしたが、「川とノリオ」を読んでブックレビューを書いた後に、自分で選んだ物語のブックレビューを書く活動は、児童の意欲を高めたり、読書の幅を広げたりするために有効であった。図書館や書店にあるポップやブックレビューについて紹介し、モデル文を示したことで、どのように書くのかを想像することができた。最終的に、自分で選んだ物語で書くことを目的とすることは、読書をするのが好きな児童にとって楽しい活動になった。

○自分で選んだ物語のブックレビューを書くにあたり、相手を誰にするのかを個々に考えさせた。1年生なら絵本、同じ学年なら自分が今読んでいる本といったように、選ぶ本が相手によって変わってきたが、わかりやすく伝えることや、興味をもってもらうための書き方を考えながら書くことができた。

②読み取る内容を焦点化し、わかりやすい活動を計画する。

○ブックレビューを書くにあたり、「あらすじ」「優れた叙述」「登場人物の心情の変化」に視点をあてて書くようにさせたことで、読みとるべき内容を焦点化することができた。

○焦点化することで、「紹介するために何を伝えればよいかわからない」という児童が、書く内容を明確にして、ブックレビューを書くことができた。

③登場人物の心情の変化を読むための手だて

○登場人物の心情がわかる叙述がどの表現なのかを探することができない児童が多くいた。そこで、単元の途中からであったが、登場人物の心情がわかる叙述を指導者からピックアップし、児童に示すようにした。その表現からわかる心情をストーリーマップにまとめていくことで、読み取ることができた。

○似ている表現（たとえば「八月六日」と「また、八月の六日が来る」）や、文の一部を隠すしかけ文（「サクッ、サクッ、サグッ、母ちゃん帰れ。サクッ、サクッ、サクッ、母ちゃん帰れよう。」の最後の「よう」を隠す。）などを使って、その表現の仕方の違いや表現の効果について考えさせることで、登場人物のおかれている状況や心情の変化を読み取ることができた。

④思考ツール「ストーリーマップ」を使って視覚的に考えを整理する。

○「ストーリーマップ」を用いて考えを視覚化することで、あらすじや登場人物の心情の変化をとらえやすくなった。あらすじを自分の言葉でまとめるときや、ブックレビューを書く際にはストーリーマップを活用することができた。

○ストーリーマップを使うことは、視覚化されると同時に焦点化もされるので、あらすじをまとめるにあたり、あらすじをまとめることができなかった児童はポイントを押さえてまとめることができ、文章が長くなりすぎてしまう児童は端的にまとめることができた。

〈仮説2について〉

①優れた表現の効果の理解と活用

○「比喩」「体言止め」「オノマトペ」「リフレイン」「倒置法」「対句的表現」について、知っているものが少ないという実態があった。優れた表現について知ることと、その表現を「川とノリオ」の文中から探すことからはじめた。その表現があることでどんな効果があるか、または、その表現を使わないとでどんな違いがあるかについて考えさせることで、優れた叙述について理解することができた。

○優れた叙述を学んだことで、ブックレビューを書くときに、それらを活用することができた。また、日記や作文、詩を書くといった表現活動に取り入れることができるようになった。

②「言葉のノート」の作成

○国語科の学習やドリルタイムに、学習用語や教材文の意味調べをし、「言葉のノート」に記録した。本文の前後関係から想像できる語句はたくさんあるが、調べて記録したり、調べた言葉を実際に使ってみたりすることで言語の獲得につなげることができた。

▲「言葉のノート」に学習用語や語句を書いていくことに楽しさを感じているものの、自主的に活用する児童と、そうでない児童との個人差が大きい。今後も授業やドリルタイムなど時間を確保して作成していく必要がある。

資料編

1 単元名

感想を伝え合おう 『川とノリオ』

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、国語科学習指導要領第5学年及び第6学年の以下の内容を受けて設定した。

C 読むこと

(1) ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。

エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。

カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(1) イ (キ) 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。

(ケ) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。

本単元は、教材文である『川とノリオ』のあらすじをとらえたり、表現の効果などから味わって登場人物の心情の変化を考えたりして、感想を伝え合うことをねらっている。さらに、読書を通して考えを広げたり、読書の幅を広げたりする。

本単元で学習する『川とノリオ』は、変わらず流れ続ける「川」と、時代に翻弄され変わっていく「ノリオ」とその周囲の人々の対比構造を軸に展開されており、こうした象徴的な表現がこの教材の特徴である。また、優れた叙述によって登場人物の心情の変化の場面を思考させていくことができる教材である。

児童は6年生になってからこれまでに、随筆を読み、そのあとに実際に簡単な随筆を書く活動と、情報文を読み、その情報文の推薦文を書く活動を経験している。書いた随筆や推薦文は、友だち同士で読み合うという交流活動をし、もう一度自分の作品について考える経験もある。

教材の特徴と、児童のこれまでの経験から、作品の紹介文を書く活動を通して、物語のあらすじをとらえ、優れた叙述から登場人物の心情の変化を読む力を身につけさせたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童（男子17名、女子19名、計36名）は、課題にまじめに取り組むことができ、できた喜びを味わうことができる。しかし、難しい問題に直面すると、考えるのをやめてしまったり、誰かが解決してくれるのを待っていたりすることがある。また、自分の考えを伝えることに苦手意識があり、進んで考えを伝えようとする児童は少ないが、指名されたときには伝えることができる。

本単元を指導するにあたり、次のようなアンケートを実施した。

実施日 平成29年5月22日（実施人数36名）

1 物語の学習で楽しい・わかると思うのはどんなことですか。（自由記述）

○物語自体を読むことが好き（8人）

○物語の続きが楽しみ（4人）

- 好きな物語・面白い物語のとき（４人）
- 主人公の気持ちになれる（２人）
- 物語の続きを想像するとき
- 読んだ後、どう思ったのか説明するとき
- 登場人物と気持ちが同じになるとき
- 面白くて読んでいていつの間にか時間が過ぎていってしまう。
- クライマックスになったとき。文字もクライマックスになっているようにみえる。
- 最初から最後までいろいろなことが起きている。
- いろいろな種類の物語があるので楽しい
- 音読をするとき（３人）
- 作者の考え（２人）
- 読み聞かせ（２人）
- わかりやすい物語
- 知っている内容のとき
- 内容がわかると楽しい
- 自分のことと比べると
- グループでの学習

2 物語の学習で楽しくない・わからないと思うのはどんなことですか。（自由記述）

- 難しい言葉（７人）
- 難しい表現（４人）
- つまらない、興味がない物語（３人）
- 難しい漢字（２人）
- 登場人物が複雑なとき
- 内容がよくわからない、難しいとき（７人）
- 発表すること（３人）
- 感想を書くこと（３人）
- 長い物語（２人）
- 作者の気持ちを考えること
- 話が展開
- 字が細かい時
- 面白くないときはない（６人）

3 読んだ本の感想を書いたり、伝えたりすることは楽しいですか。

- ・楽しい・・・４人
- ・少し楽しい・・・１５名
- ・あまり楽しくない・・・１２人
- ・楽しくない・・・４人

理由

- 友だちに勧めるのが好きだから（４人）
- 本のいいところを言ったり、書いたりすることが好き（３人）
- 感想を言うと、相手も言ってくれて共感できる（２人）
- 友だちの感想を聞いて自分と比べることは楽しい（２人）
- 感想を書くことが好き（２人）
- 自分の気持ちを書けるから好き
- 友だちに感想を言うのは楽しいけれど、自分の好きなものばかり選んでしまって、その時は、自分の趣味をあまり知られたくないと思う。
- みんなの好きな本がわかり、その本を貸してもらったり、買ったりできる。
- 感想を書いているとき思い出せることが楽しい
- 作文のように長く書くことはできないが、思ったことをそのまま書くのは好き。
- 感想を伝え合うと、新しい発見ができる。
- 感想を伝えることは得意ではない（４人）
- 発表で言うのは苦手（２人）
- 何を書くのかわからない（２名）
- 読むのも書くのも好きではない
- 自分は面白くても、相手はあまり面白くないかもしれないから
- 本は読むだけでいいから
- 文にするのは難しい（３人）
- うまく伝えられない（２人）
- 心に残る場面があまりない
- 説明力がなくていつも理解してもらえない

4 戦争に関する本などを読んだことがありますか。

はい …… 30人 いいえ …… 6人

・はだしのゲン ・一つの花 ・ちいちゃんのかげおくり

・川とノリオ ・ほたるの墓 ・杉原千畝 ・ヒロシマのピカ ・千羽鶴

・ユダヤ人、人種差別を経験したことのある人の本

・題名はわからないが、主人公のおじいさんが戦争で起こったできごとを話して、最後に自分はもうどう思っているかを考える話

5 戦争について誰かから聞いたことがありますか

はい …… 15名 いいえ …… 21名

・どんな風に逃げるのかを聞いた ・飛行機で突っ込んだ話を聞いた

・その時代は大変だったけど、今は幸せだと思った ・暮らしについて聞いて大変だと思った

・原爆や放射線のこと、たくさんの人が亡くなったことを聞いた ・資料館で見た

・おばあちゃんが逃げ回ったことや、ご飯が少ししかなかったことを聞いた

・お母さんから聞いて、なぜ罪をおかしていないのに戦争に行かなければならないのだろうと思った

・ひいおばあさんから、いたるところが燃えていてガラスの破片だけがをした話を聞いた。もうこんなことが起こってほしくないと思った。

・おじいちゃんが小学生のころ、B29 が飛んでいた話を聞いた

・先生のお父さんとおじいちゃんの話聞いて、とても悲しくなった

アンケート結果から、物語の楽しみ方が児童それぞれにあることがわかる。2 番目の設問の「物語の学習で楽しくない・わからないと思うとき」に着目すると、「難しい言葉」や「難しい表現」があるとき、「内容がよくわからないとき」と答えていることから、語彙力や表現の効果の理解が乏しいことが考えられる。読んだ本の感想を伝え合うことは、44%の児童が楽しくないと感じている。「感想を伝えることが難しい」「うまく伝えられない」など、伝えるための表現の仕方がよくわからない児童が36%いる。2 番目の設問と関連付けてみると、内容を理解できないことが原因となって、感想を伝えることが楽しくないということも考えられる。

5 月に実施した随筆の読むことに関する評価テストでは、47%の児童が、内容理解ができているものの、設問に対して正しい表現で答えることができなかった。普段の授業でも、発問に対して適切に答えることができない児童や、言いたいことがあっても言葉が整わずにうまく話すことができない児童が半分以上いる。随筆を書く学習では、日本語を学習中の児童を除いて、全員が自分なりの考えを簡単な随筆で表すことができた。随筆の学習後のアンケートでは、自分の考えを自由に書けることと、友だちの随筆を読んだこと、読んだ感想をもらえたことが楽しかったと答えている児童は72%である。28%の児童が楽しくなかったと答えており、その理由は「自分の考えを表現できない」「書く内容がない」であった。表現の仕方がうまくできないことが原因であることがわかる。

(3) 指導観

仮説 1

児童が目的意識を持続できるような単元を計画し、単元のねらいに沿った言語活動を設定すれば、主体的に表現する力を高めることができるだろう。

児童の実態から、本単元を指導するにあたり、次のような手立てを実践していく。

① 『川とノリオ』の紹介文を書くことをゴールとする単元計画

意欲を持ち、さらに目的を明確にして読み深めるために、『川とノリオ』の紹介文を書く活動をゴールとする。ゴールに行き着くまで、どのような活動をしていくのかを示し、毎時間の活動内容を明確にすることで、学習の見通しを持たせる。

『川とノリオ』は、優れた叙述がたくさんあり、その効果を考えることで、登場人物の心情の変化を深く読むことにつながると考える。そこで、第一次、第二次、第三次で構成する。

第一次では、モデル文を提示し、紹介文を書いて図書室に置くという具体的な見通しを持たせることで、関心・意欲を高める。また、紹介文のモデルを提示することは、感想を伝え合うことに苦手意識を持っている児童が、どのような活動なのかをイメージしやすくなると考える。

第二次では、登場人物の行動や優れた叙述をもとに、あらすじや登場人物の心情の変化を捉えることができるようにする。その際、しかけ文（本文とは少し異なった文）を提示し、優れた叙述の効果を考えることができるようにする。読み取ったことをもとに、「川とノリオ」の紹介文を書き、友だちと読み合い、相互評価をする。紹介文を書く際には、「あらすじ」「優れた叙述」「登場人物の心情の変化」について紹介することとする。焦点化することで、紹介する側も紹介される側もわかりやすいものとなるようにし、さらに戦争に対する偏った見方にならないように留意したい。

この単元で書く「紹介文」は「ブックレビュー」だと伝え、長く書くことは強要しない。また、「ブックレビュー」は本の評価になるが、そこにはこだわらず、『川とノリオ』をたくさんの人に手に取ってもらうためにはどのようにすればよいか」を考えさせて書かせたい。

第三次では、物語を読み、紹介文を書いた経験を生かして、『川とノリオ』以外の物語の紹介文を書き、読書活動が広がるようにする。

② 思考ツールを活用し、視覚的に考えを整理する

思考ツールを用いて視覚化し、登場人物の心情の変化や自分の考えを明確にし、主体的に表現できるようにしたい。思考ツールを用いる際、ワークシートが必要となるが、ノートに自分の考えをまとめる大切さを学ばせるため、ノートと併用して学習を進めていく。

③ 興味・関心を広げる読書活動

時間外ではあるが、戦争に関する本を教室に置いたり、読み聞かせを実施したりし、興味・関心を高める。戦争に関する本のみでなく、優れた表現が書かれている本も準備しておき、教師から紹介するようにする。

仮説 2

言語を増やしたり獲得したりするための活動の工夫をしていけば、主体的に表現する力を高めることができるだろう。

実態にあるように、50%の児童が「難しい言葉」「難しい表現」があると、物語の学習はわかりにくいと感じている。そこで、次のような手立てを実践していく。

① 優れた表現の効果を理解し、活用する活動

『川とノリオ』は、「優れた叙述」が多くあり、その表現の効果から登場人物の心情の変化を読むことができるが、「優れた叙述」の効果について理解することが難しい。「比喩」「体言止め」「オノマトペ」「リフレイン」「倒置法」「対句的表現」など、とても多くある。『川とノリオ』に書かれている表現について確認するだけでなく、ドリルタイムに短文作りを取り入れたり、日記にそれらの表現方法を取り入れる課題を出したりして、実際に使うことで言語の獲得をさせたい。

② 話型や紹介文の形式の提示

自分の考えたことを整った文章で表すことができるようにするために、友だちとの意見交流で話型を提示して伝えることに慣れさせたり、紹介文の形式・パターンについて示したりする。

本学級には、第5学年9月より、中国からの転入生がいる。現在、日本語の学習中であり、大体的な内容を聞くことはできるが、話したり、書いたりすることは難しいようである。しかし、普段の授業での教師の発問や児童の発言、学校生活中の会話から日本語を学んでいるこの児童に対し、全く違う課題を与えることは、望ましくないと考える。「川とノリオ」を読む活動は同じように進めていくが、紹介文を書く活動では、印象的な場面を選ばせ、書き写すようにさせる。また、感じたことを中国語で表現してもよいことを伝え、保護者の協力をもらい、日本語での訳文をほかの児童にも伝えることができるようにする。

4 単元の目標

○優れた表現を味わいながら、人物の心情の変化を読み、紹介文を書こうとしている。

(国語への関心・意欲・態度)

○優れた表現に気づき、その効果を考えながら文章を朗読することができる。(読むこと)

○優れた表現に現れた登場人物の心情の変化を想像しながら読むことができる。(読むこと)

○優れた表現について理解し、その効果をとらえることができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 指導計画(10時間扱い)

学習過程	時配	学習内容と学習活動	評価規準(観点)【方法】(仮説)
見出す	2	○教材文を読み、初発の感想を書く。 ・時・場・人物に着目 ○モデル文を読み、単元の見通しを持つ。 ブックレビューを書いて、物語の紹介をしよう。	・教材文に興味を持ち、初発の感想を書こうとしている。(関心・意欲・態度)【ノート・発言】 ・モデル文を読み、学習の見通しを持とうとしている。(関心・意欲・態度)【行動観察】(仮説1) ・並行読書と短文作りを通して、読書への興味を広げたり、表現の効果を習得したりしている。(言語)【行動観察・ノート】(仮説2)

考え深める	1	○「ブックレビュー」を書くことを見通し、登場人物の行動について考え、『川とノリオ』のあらすじを捉える。	・登場人物の行動から、あらすじをとらえている。(読むこと)【発言・ノート】
	3 本時 (6/10)	○「ブックレビュー」を書くことを見通し、優れた叙述をもとに、登場人物のおかれた状況と心情の変化について考える。	・優れた叙述の効果から、登場人物の心情の変化をとらえている。(読むこと)【発言・ノート・教科書へのサイドライン】〈仮説1〉
	1	○「ブックレビュー」を書くことを見通し、「あらすじ」「優れた叙述」「登場人物の心情の変化」を関連付けて考える。	・「ブックレビュー」を書くために、これまでに学習したことから材料を探している。(読むこと)【発言・ノート】
	2	○『川とノリオ』の「ブックレビュー」を書き、友だち同士で交流し、相互評価をする。	・「あらすじ」「優れた叙述」「登場人物の心情の変化」をもとに、『川とノリオ』のブックレビューを書いている。(読むこと)【ブックレビュー】〈仮説1〉〈仮説2〉 ・友だちと「ブックレビュー」を読み合い、良いところを認め合い、意見交流をしている。(読むこと)【交流カード・発言】〈仮説1〉
まとめあげる	1	○自分で選んだ物語の「ブックレビュー」を書き、本とともに図書室に置く。	・選んだ物語を読み、「あらすじ」「優れた叙述」「登場人物の心情の変化」などをもとに「ブックレビュー」を書いている。(読むこと)【ブックレビュー】〈仮説1〉

6 本時の指導 (6/10)

(1) 本時の目標

○優れた叙述の効果から、登場人物の心情の変化をとらえることができる。(読むこと)

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価 〈仮説との関わり〉	資料
5	1 前時までに学習した内容を確認し、本時の学習のめあてをつかむ。	・前時までの学習を振り返り、めあてを確認することで、本時の学習の流れを意識させる。	学習計画の揭示物
	ノリオの心の変化を考えよう。		

20	2 優れた叙述と登場人物の心情の変化について考える。 (6) ・「八月六日」・「また八月六日が来る」の表現の違いについて考える。 〈予想される児童の反応〉 ・戦争が終わった後の八月六日。 ・母ちゃんがいらない八月六日。 ・ノリオは成長している。 ・「幾たびめかのあの日」 (6) ・「ノリオは、青いガラスのかけらを、ぼんと川の水の中に投げてやった。すぐにまぶしい日の光が、ノリオの世界に返ってきて、ノリオは仕事を思い出す。」について、ノリオの行動と「ノリオ」のおかれている状況について考える。 〈予想される児童の反応〉 ・青いガラスを川に投げて、さびしさを忘れたい。 ・考え事をしていたノリオが現実の世界に返ってきた。 ・悲しんでばかりいられないと思って仕事をする。 (8) ・「ノリオは、またかまを使いだす。サクッ、サクッ、サクッ、母ちゃん帰れ。サクッ、サクッ、サクッ、母ちゃん帰れよう。」の、リフレインの効果、最後だけ「よう」が付いている効果と、またかまを使いだしたのはなぜか、について考えさせ、ノリオの心情を考える。 ☆「またかまを使いだした」のはなぜでしょう。か。「母ちゃん帰れよう」の「よう」がなくてもノリオの気持ちが伝わってきませんか。	・思考ツールを用いて視覚化することで、「ノリオ」の心情を考えながら読むことができるようにする。 ・同じ「八月六日」でも、表現の仕方が変わることによって、「ノリオ」がどう変わったのかを考えさせる。 ・川の中にガラスのかけらを投げることで、日の光がノリオの世界に返ってくること、仕事を思い出すことの3つに着目させて、「ノリオ」の変化に気付くようにさせる。 ・「母ちゃん帰れよう」の最後の「よう」を隠したしかけ文を提示し、その違いに気付かせる。 ・同じ文でも、繰り返されていることに着目し、その効果を考えさせることで、「ノリオ」の「母ちゃんに帰ってきてほしい」という心の叫びに気付かせる。 ・なぜ、またかまを使いだしたのかを考え、心情の変化について考えさせる。 ・リフレインと「よう」の効果により、ノリオの気持ちが高ぶっていることがわかることを確認する。	ワークシート 掲示物
----	--	--	--------------------------

	〈予想される児童の反応〉 ・子どもを連れた女の人を見て、母ちゃんを思い出し、そのさびしさを忘れたくて、またかまを思い出した。 ・母ちゃんに帰ってきてほしいという強い思いがリフレインと「よう」に込められている。		
15	3 「ノリオ」の心情の変化をノートにまとめ、ペアで意見交流をする。 ☆成長したノリオは、どんな気持ちでしたか。そして、どのように変化したのでしょうか。 書き出しの例文 「成長したノリオは、母ちゃんがいなさびしさを忘れようと仕事をしていた。～～～」 〈予想される児童の反応〉 ・母ちゃんがいなさびしさを忘れたと思っていたノリオは、子どもを連れた女の人を見て、母ちゃんのことを思い出してしまった。母ちゃんはいないけれど、帰ってきてほしい。 ・母ちゃんがいなくてもがんばっていたノリオが、やっぱり母ちゃんがいないとさびしくて帰ってきてほしいと強く思っている。	・本時の学習で学んだ表現の効果からわかったことを確認し、心情の変化をまとめることができるようにする。 ・思考ツールを参考にしてみよう助言する。 ・自分の言葉でまとめることができない児童のために、書き出しの例文を与え、続きを書くことで、心情の変化についてまとめることができるようにする。 ○優れた叙述の効果から、登場人物の心情の変化をとらえている。(読むこと／ノート)〈仮説1〉 ・ペアで意見交流をし、自分と友だちの共通点や違いなどを視点に比べ、お互いの良さに気付かせる。 ・ペアでの意見交流では、話型を使うことで、表現することが苦手な児童でも友だちに伝えることができるようにする。	書き出し文のヒントシート (必要な児童のみ)
5	4 本時の学習のめあてから、目標が達成できたかどうかを自己評価し、次時の見通しを持つ。	・優れた叙述から登場人物の心情の変化を読むことができたことを称賛し、次時への意欲を高める。	

(2) 板書計画

川とノリオ

いぬいとみこ

④ ノリオの気持ちの変化を考えよう

「八月六日」

「また八月六日が来る」のちがひ。

- ・ 戦争が終わった後の八月六日。
- ・ 母ちゃんがない八月六日。
- ・ ノリオは成長している。
- ・ 「幾たびめかのあの日」

「ノリオは、青いガラスのかけらを、ぽんと川の水の中に投げてやった。すぐにまぶしい日の光が、ノリオの世界に返ってきて、ノリオは仕事を思い出す。」

- ・ 青いガラスを川に投げて、さびしさを忘れたい。
- ・ 考え事をしていたノリオが現実の世界に返ってきた。
- ・ 悲しんでばかりいられないと思って仕事をす

る。

「ノリオは、またかまを使いだす。

サクツ、サクツ、サクツ、母ちゃん帰れ。
サクツ、サクツ、サクツ、母ちゃん帰れよう。」

ノリオの心情はどのように変化したのか

初発の感想

幸ては三蔵の相棒だ。』それ以来
 戦争を思ひ出し、進んで戦うは時間だ
 思ひ。『母が、この世に居てくれ
 』と云。『一才は居るが、少少づつ居るが
 一才は居るが、少少づつ居るが

三つカ
二つカ
一つカ

ブックレビューを書くにあたり、条件を与え、物語を読むときに焦点化して読むことができるようにした。

学習の計画を確立しよう

あらすじ用ストーリーマップ



登場人物の変化がわかる文を抜き出し、書く。

『川とノリオ』ストーリーマップ

氏名

上段からわかる登場人物のおかれた状況を考え、書く。

登場人物の心情を考えるストーリーマップ

『川とノリオ』ストーリーマップ

氏名

ブックレビュー

川とノリオ

作者 (いぬい とみこ)

戦争があったころ広島にノリオという二才の何もしらない幸せな男の子がいた。あつきの八月六日、母ちゃんが帰ってこない。ながしたのものも帰ってこない。そして父ちゃんもは随で帰ってきた。小2になったノリオにいろいろなことを知っている。すごく成長した。母ちゃんが帰ってこないときに、黒いゴムは帰ってこない。麦わら帽子も帰ってこない。黒いパンツも行ったきり。この表現からなにもか も帰ってこないというノリオの気持ちがすごく伝わってきます。

ブックレビュー

川とノリオ

作者 (いぬい とみこ)

戦争があったころ、ノリオという元気な子がいいた。ノリオは、川にものをながしてあそびた。そのころ父ちゃんは戦争に行つた。八月六日のあの日、ノリオのながしたものがかえってこなかった。母ちゃんもどこかに行ってしまった。秋が来て、父ちゃんがかえってきた。小さな箱で、母ちゃんをまちつづけたあの日。小学二年生になり、ノリオはじいちゃんやばあさんのくさかりのてった"11をいひ、"サクサク、サク、母ちゃん帰よう。"ここからノリオのどんな気持ちがわかりますか。

ブックレビュー

川とノリオ

作者 (いぬいとみこ)

戦争の時代、広島付近にノリオという2さいの男の子がいた。
ノリオはいつも川と遊んでいる。そんなノリオの父ちゃんは
戦争に行ってしまった。八月六日 母ちゃんも広島に行ったきり。でも
ノリオはそのことを知らない。そして、母ちゃんはそのまゝ帰って
こなかった。秋、父ちゃんは小さな箱で帰ってきた。

ノリオは小学2年生に成長した。

「父ちゃんが戦地から帰ってきた。父ちゃんは小さな箱だった。
じいちゃんがううときせるをかんだ。川がさらさらと歌っていた」
の「川がさらさらと歌っていた」のは、なぜだと思いますか。

「川とノリオ」のブックレビューを書いたあと、グループで読み合い、お互いの良さを伝え合った。

裏面にコメント

さいごに「なぜだ
と思いますか。」と読んで
いる人に問いかけ
ていて、いい表現
のしかただと思った。

「なぜだと思いますか。」
と問いかけで終わって
いるのがよかった。

かたりかいているところ
がよかった。
引用しているところもあて
よかった。
字がキレイで読みやすかった

ブックレビュー

川とノリオ

作者 (いぬいとみこ)

戦争の最中、ヒロシマの近くにノリオという二さいの子どもがいた。

ノリオは戦争のことなど知らず、川とむじゃきに遊ぶ二さいの小さな神様だった。そんなノリオの父ちゃんは行てはった。

ノリオの知らない場所に。母ちゃんはやつれていく。そしてノリオはじいちゃんの子になる。

八月六日川と遊ぶノリオは「ドド……」という音を聞いた。その日母ちゃんは帰ってこなかった。秋になり父ちゃんは帰ってきた。小さな箱になっていた。そして

また八月六日に来る…ノリオも小学二年になった。いふふノリオもだまふ

いる。ノリオには仕事がある。それはじいちゃんの工場の干し草かりだ。

ノリオは今日もかまをふる「サク、サク、サク、母ちゃん、帰れ」と。もう二さいのころとは

ちがうノリオ。ノリオの変化と、登場人物の様子がわかる表現の仕方がこの牛姪語の良いところ。

「最後に自分の意見を
かいていてよかった。
ノリオは今日もくちがうノリオ
のところがすごくよかった。」

あらすじがわかりやすく
書いてあって、よみたくなる
文章でした。

わかりやすくか
いてあって、はじ
めての人でも
わかりやすく
なっている

ブックレビュー

おこだてませんように 作者 (くすのき しげのり)

年生の男の子がいた。この男の子はいつもおこられる。本当は、いいにやなうて言われたいのにな、いつもおこられる。

そんな男の子は、7月の7日、たなはだの日に、たんざくに、『おこだてませんように』と書いた。

これを見た先生は、泣いていた。

先生、いつもおこってばかりだったね。

そのとき、男の子はどう思ったと思いますか。

そのよう、先生から電話があった。そして男の子といっまでもたぎしめていた。

ブックレビュー

水の精とふしぎなカヌー 作者 (岡田 淳)

こそあどの森の物語

こそあどの森には、不思議な家に住む個性豊かな住人たちがいる。

ひとつめの話 トリオトコのワルツ

トワイエさんは、けがをして、スミレさんの家に泊まっていた。ノートをとりに行くスキッパー。らせん階段には、たくさんの落ち葉がこんど、そうじしてあげよう。とつぶやき、帰っていた。また、行くと、階段がきれいになっていた。のぼってみると、何もないうのにころんでしまった。一なにか、けた？ だれがいるのだろう。

ふたつめの話 ふしぎなカヌー

ふたごがツクシ、ワラビと呼びあっていたころ。川から小さなカヌーが流れてきた。「これ、ひとがつくたとは思えない。夢をふくらませ話すふたご。

スキッパーと調査しよう。

※児童の学習を終えての感想や学習へのとりくみについて、成果を確かめるために以下のような意識調査を行った。

調査人数 36名

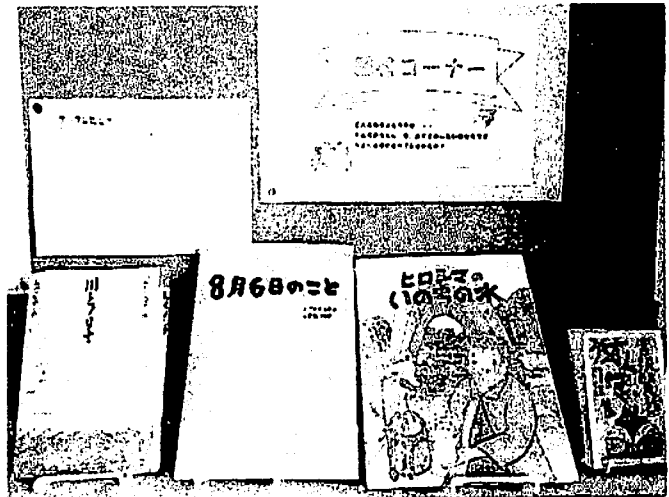
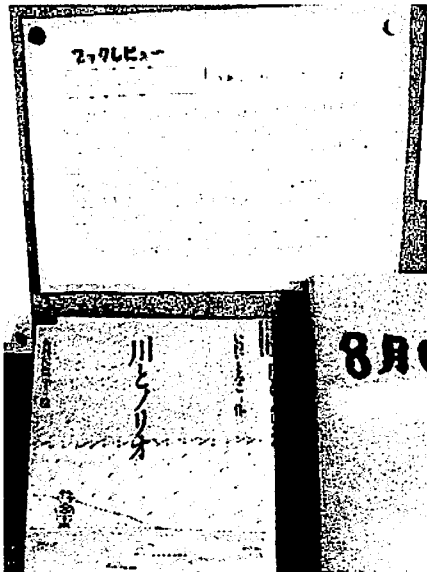
設 問	児童の回答
①「川とノリオ」の学習は楽しかった ですか。	○楽しかった 13人 ○少し楽しかった 19人 ・ブックレビューを書くのが楽しかった 12人 ・ノリオの気持ちがわかった・ノリオの気持ちを知りたくて考えるのが楽しかった 9人 ・戦争の時代のことがわかった 3人 ・話の内容が興味深かった 3人 ・ストーリーマップに書くこと 3人 ・あらすじをまとめること 3人 ・音読をしたことが楽しかった 1人 ・「父ちゃんは小さな箱だった」のところで、死んだとは書いていないことについて、何があったのかなどを考えるのが楽しかった 1人 ・おもしろい表現がたくさんあった 1人 ・ノリオの成長について考えたこと 1人 △あまり楽しくなかった 4人 ・内容があまりわからなかった 1人 ・ブックレビューを書くこと 1人 ・ノリオの気持ちを考えることが楽しくなかった 1人 ・無回答 1人
②「川とノリオ」の内容はわかりましたか。	○わかった 26人 ○少しわかった 9人 △あまりわからなかった 1人
③ストーリーマップは役に立ちましたか。	○とても役に立った 20人 ○少し役に立った 12人 ・あらすじをまとめやすかった 10人 ・ブックレビューを書くときに役立った 9人 ・ノリオの心情がわかりやすかった 9人 ・内容がわかった 7人 ・話の展開が一目見ただけでわかった 2人 ・ブックレビューを書くときに、抜き出したいところが

	すぐわかり、短い言葉でまとめることができた。 1人 ・重要な部分がわかった 1人 ・みんなの考えがわかった 1人 △あまり役に立たなかった 4人 ・ストーリーマップを使わなくても内容がわかる 2人 ・よくわからなかった 1人 ・無回答 1人
④ブックレビューを書いた学習は楽しかったですか。	○楽しかった 29人 ○少し楽しかった 5人 ・自分で選んだ本のブックレビューを書いてよかった 15人 ・自分で選んだ本をみんなに知ってもらえた 8人 ・ブックレビューを書くことが楽しかった 4人 ・自分がいいと思うところをありのままに書けた ・ストーリーマップがあったので書きやすかった ・本屋のポップと違う書き方が楽しかった ・自分がいいと思うところを好きなように書いて、簡単なあらすじも書けた ・紹介するのは楽しかったが、長くなってしまうところを短くまとめるのは難しかった △あまり楽しくなかった 2人 ・好きな本が決まらなかった 1人 ・ブックレビューはいやだから 1人
⑤「川とノリオ」のブックレビューを書いたことは、好きな本のブックレビューを書くときに役立ちましたか。	○はい 24人 ○いいえ 12人

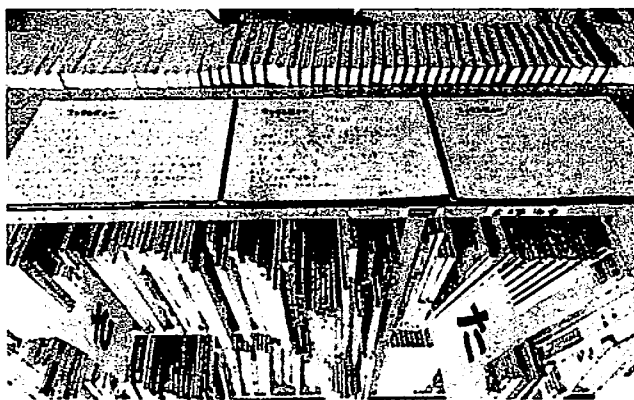
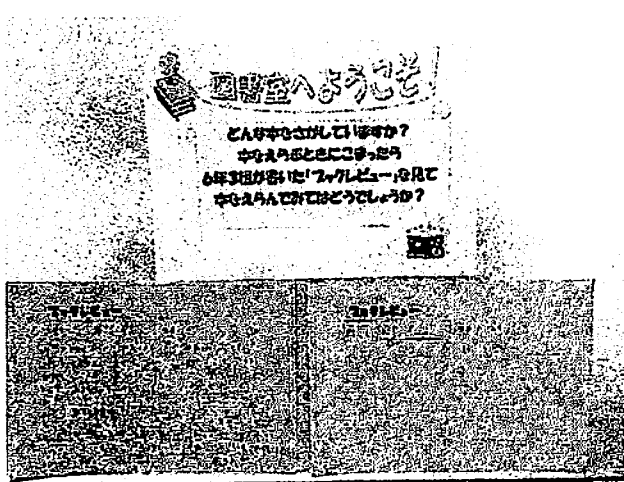
(考察)

本の紹介をすることや感想を伝え合うことが好きな児童たちだが、実際には、自分の考えをまとめることや、自分の言葉で表現することに対して苦手意識がある。初発の感想やあらすじをまとめる際に、視点を与えたことで、自分の言葉で表現することができた。学習前は、「読んだ本の感想を書いたり、伝えたりすることは楽しいか。」という設問に66%の児童が楽しいと答えているのに対し、「ブックレビューを書いた学習は楽しかったか。」という設問では、94%の児童が楽しいと答えている。少数ではあるが、「自分がいいと思うところをありのままに書けた。」「簡単なあらすじが書けた。」という感想があり、本の内容を理解できたという実感がある。

この単元を指導するにあたり、「ストーリーマップ」を初めて使ったが、あらすじをまとめる時に役立ったと答えている児童は88%である。この単元でねらっていた「あらすじをおさえる」「登場人物の心情の変化をまとめる」学習をしているときに、ストーリーマップを使って学習したことを振り返る児童がいた。



教室においたモデル文や関連する本



自分で選んだ本のブックレビューは図書室に置き、来室児童に参考にしてもらうようにした。



図書室に置いたブックレビューを参考に本を借りた児童からのメッセージ

○雪の女王

「幼なじみのカイの心ぞうに美しいものをつまらなくうつすまほうのかがみがささった」と書いてあってびっくりしました。「カイをさがしたゲルダのゆくえは！！」とさい後に書いてあり、つづきが読みたくなりました。

○名探偵コナン 業火の向日葵

「炎の中のひまわりはとりもどすことはできるのか？」と書いてありました。読んでみたいです。

○名探偵コナン 業火の向日葵

このブックレビューを読んでドキドキしました。「失われたはずの幻のひまわりを落札した次郎吉は、日本でのひまわり展を開催することにした。」という場所がだいじょうぶかなと思いました。さらに「はたしてひまわりのゆくえは…」で終わっているのだけつまつを知りたいと思います。

○おこだてませんように

ずっとおこられている男の子が七夕に「おこだてませんように」と書いたところがおもしろかったです。

○ねこの駅長たま

「世界で初のねこの駅長になったたま。最初はじゅんちょうだったけど、あとからふあんなことばかり」と書いてあるので悲しいのかなと思いました。「本当にあった」話とも書いてあるので、ドキドキして読みたくなってきました。